

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 2 月 5 日作成)

委員会名	キャンパス計画小委員会	主 査 名：小林英嗣
所属本委員会 (所属運営委員会)	都市計画委員会	委員長名：佐藤 滋
設 置 期 間	2003 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	<p>設置目的：全国的に実施されている大学改革におけるキャンパス計画の都市計画上の位置づけ及びその戦略と変遷を明らかにする。(2) 日本全国におけるキャンパス計画の情報収集を行い、今後の整備方向の明確化を行う。(3) 千年に及ぶ大学の歴史をふまえながら、次世代におけるキャンパス像を明らかにする。</p> <p>2003年度活動計画：キャンパスと都市・地域WGを中心として、(1) 都市計画論、地域経営論からの分析の視点、(2) 都市再生施策、施設整備計画の視点等から各大学の抱える資源、課題、計画主体、組織などのデータを整理する。また、2002年度の米国事例調査をふまえ、世界の約500大学における長期計画等を入力し、データベースを構築する。また、キャンパスの計画と戦略WGを中心として、地域の首長や学長などの経営関係者へのヒアリングを行い、地域戦略と大学施設の経営戦略の方向性を整理する。また、その成果をホームページ上で公開する。</p> <p>2004年度活動計画：大学経営と地域経営を対象としたシンポジウムを開催し、典型的な大学のケーススタディなどによって、大学キャンパスと地域社会の連携に関する委員会活動を広くアピールする。(1) キャンパスと都市・地域WG、キャンパスの計画と戦略WGによる大学と都市の連携に関する調査研究の継続実施、(2) 2004年度大会特別シンポジウム「あすの地域・都市環境の再生をデザインする - 都市と大学の連携 - 」(仮)の開催、(3) 2004年度特別シンポジウムにあわせ、活動成果ハンドブックの出版、(4) キャンパス計画関係者の懇談会(第7回)の実施、(5) オンライン・ウェブサイトによる日常活動の公開</p>	
委員構成 (委員名(所属))	<p>小委員会：小林英嗣(北海道大)、小篠隆生(北海道大)、坂井猛(九州大)、有賀隆(名古屋大)、上野武(千葉大)、尾崎健夫(早稲田大)、金谷史明(文部科学省)、岸田省吾(東京大)、鈴木雅之(千葉大)、岸本達也(慶応大)、倉田直道(工学院大)、小松尚(名古屋大)、杉山丞(東北大)、鶴崎直樹(九州大)、三島伸雄(佐賀大)、WG：小委員会委員 15 名 + 木多道宏(大阪大)、久保勝裕(北海道工業大)、斎尾直子(筑波大)、萩島哲(九州大)、山口勝己(武蔵工業大)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>キャンパスと都市・地域ワーキンググループ(主査：有賀隆、幹事：鶴崎直樹)： キャンパスと都市・地域が連携した先進的計画事例に関する情報収集とデータベースの構築および公開を行うことを目的としている。</p> <p>キャンパスの計画と戦略ワーキンググループ(主査：上野武、幹事：尾崎健夫)： キャンパス計画の位置づけ及び抱えている課題・戦略を明らかにする。地域戦略や施設マネジメントの視点からキャンパス計画を見直すことを目的としている。</p>	
2003 年度予算	180,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	<p>1. キャンパス計画小委員会を 6回開催(5/29(木)11名, 6/28(土)14名, 9/7(日)15名, 11/21(金)11名, 1/25(土)12名, 3/3(水)予定)した。</p> <p>2. キャンパスと都市・地域ワーキンググループを 7回開催(5/29(木), 6/27(金), 6/28(土), 7/29(火), 11/21(金), 1/25(土), 3/3(水))、キャンパスの計画と戦略ワーキンググループを 7回開催(5/29(木), 6/27(金), 6/28(土), 7/29(火), 11/21(金), 1/25(土), 3/4(水))した。</p> <p>3. 九重合宿(参加 19 名)を 6/27(金)から 3 日間、都市計画学会九州支部キャンパス計画研究会と合同で実施した。</p>
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>1. 都市計画・建築計画部門研究懇談会「戦略的大学キャンパスと都市のシナジャイズ」(出席 41 名)を 9/7(日)9:00 に大会で開催し、単なる空間構成論や計画論ではないキャンパス計画を策定するうえで、有効な資料作りに向けた作業を行うことを確認した。</p> <p>2. 成果：2002 度に引き続き、キャンパス・マスタープランと都市計画に関する海外事例の調査収集を行い、構成等に関する分析を加え、ホームページのデータベースフォーマットを見直し、全国のデータを収集中である。また、2つのワーキンググループにおける調査の一部を、「海外の大学キャンパス・マスタープラン等の構成に関する考察 大学キャンパス・マスタープランに関する研究その 1, その 2」(小林ほか 16 名)としてまとめ、大会で梗概発表を行った。続編ほかを O.S.に準備中である。</p>
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係)

	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小委員会 4 回の開催予定であったが、検討課題と内容が多岐にわたったため 6 回開催し、都市計画学会九州支部キャンパス計画研究会との合同合宿を行い、研究懇談会に向けた成果をあげるとともに、メンバー相互の交流を深めることができた。 2. キャンパスと都市・地域WGを中心として、世界の 473 大学にマスタープラン等の送付を依頼し、127 校の資料を得て、施設整備計画の視点等から各大学の抱える資源、課題、計画主体、組織などのデータを整理し、分析を行い、その一部を大会梗概として発表した。 3. キャンパスの計画と戦略WGを中心として、地域の首長や学長などの経営関係者へのヒアリングを行い、地域戦略と大学施設の経営戦略の方向性について整理中である。 4. 来年度の大会企画特別シンポジウムに向けた作業を行い、ハンドブックを作成中である。
<p>その他評価すべき事項</p>	<p>キャンパス計画関係者の懇談会第 6 回(出席 61 名)を 9/8(月)13:00、名古屋大学東山地区で開催し、小委員会の活動、JFMA キャンパス FM 研究部会の活動、名古屋大学の取り組み、法人化後のキャンパスマネジメントについての報告、意見交換を行った。大学キャンパス計画に関わる教員、文教施設関係、行政、コンサルタント等の有志ではじめた懇談会であるが、職域を超えた交流が続けられている。</p>